

はじめてのスペイン語講座

第9回 再帰動詞について



Hola. みなさん、こんにちは!

第9回目のスペイン語講座では、『再帰動詞』を紹介します。

『再帰動詞』って何でしょうか？ 名前だけからは、想像がしにくいですね。

では、例を上げて説明していきましょう。

動詞<Levantarse>には、『～を起こす』という意味がありますが、これに【自分自身】を表す再帰代名詞<se>をつけると、再帰動詞の原形<Levantarse>が出来上がります。

Levantarse + se = Levantarse
 ~を起こす 自分自身 自分自身を起こす → 起きる

上記の様に、再帰代名詞<se>をつけることによって、アクションの対象が自分自身に向くため、『自分自身を起こす』という意味が転じて『起きる』となります。再帰動詞の活用は、以下の表の通りです。法則を覚えてしまえば簡単ですね。

preng 覚えましょう!

再帰動詞の活用形

	単 数	複 数
一人称	me levanto	nos levantamos
二人称	te levantas	os levantáis
三人称	se levanta	se levantan

※ <se> は主語に応じて、<me>、<te>、<se>、<nos>、<os> に変化します。
 ※ <se> 以外の部分の活用は、<se> がついてないときと同じです。

#1

① さて、上記を見れば、『再帰動詞がどういうものか?』、という疑問は解けたのではないのでしょうか?再帰動詞の活用も出来るし、基本的な概念もわかりましたね。

では、もう少し『自分自身』にかえてくるアクションを表す、『再帰動詞』について見ていきましょう。

『再帰動詞』は、『自分の体の一部』だけに、アクションが及ぶ場合にも、用いられます。体の一部である手や顔を洗う時、服や、眼鏡、アクセサリ等を自分の身につけるときのなどがその一例です。

例えば、左の絵を見てください。マリさんが、ペットの犬を洗っています。洗うという動詞は<Lavar>ですから、

Mari lava a su perro. (マリは彼女の犬を洗う。)となります。
 主語 アクションの対象(主語とは別のもの)

では、今度は右の絵です。ミキちゃんが自分の手を洗っているところです。再帰動詞は、自分の体の一部にアクションが及ぶ時にも使用されますので、

× Miki lava las manos. ではなく、再帰動詞を使って、
 ○ **Miki se lava las manos.** (ミキは[彼女自身の]手を洗う。)
 主語 アクションの対象(主語の体の一部)

が正しい表現となります。

また、ここで気をつけなければならないのが、

Miki se lava. (ミキは[自分の]体を洗う。)
 主語 アクションの対象(主語自身)

だけでは、意味が変わってしまうので、必ず動詞の後に洗う部分(この場合は手)を表す<las manos>を付けなければならないことです。



Mari lava a su perro.

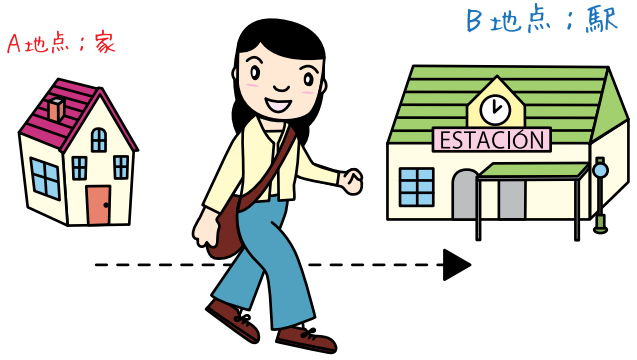


Miki se lava las manos.

② 左ページで紹介した種類の外にも、『再帰動詞』にはたくさんの種類があるため、様々な意味、用法が用いられますし、中には、<se>を付けることによって、<se>を付ける前の動詞から大きく意味が変わってしまうものもあります。その中でも、日常会話で非常に良く使われる『再帰動詞』に<irse>があります。<ir>はご存知の通り、『行く』という意味の動詞ですので、左ページの考え方をなぞると、

<ir(行く)> + <se(自分自身)> = 自分自身を行かせる

となりますが、このままでは意味が通りませんよね。辞書を引いてみると、<irse>には、『行く』の他に『行ってしまう』とか『帰る』という意味が出てきます。<ir>と似ているような違うような、ちょっとわかりにくい動詞です。ここでは、<ir>と<irse>の意味の違いについて、見ていきましょう。



<ir>は通常、目的地への移動を表すときに使われる。

動詞、<ir>は、一般的にある一点から、目的地に向かっての移動について述べるときに使います。例を見ながら説明しましょう。

左の絵を見て下さい。あきこさんがA地点の『家』から出発して、目的地であるB地点の『駅』まで移動中です。この場合は、<ir>を使い、

Akiko va a la estación. (あきこは駅に行きます。)

と言うのが適切ですね。強いて言えば、出発地点がどこであるかは関係なく、目的地がどこであるかが重要になります。

では、次に<irse>について見ていきましょう。<ir>が目的地への移動を表現するのに対し、<irse>は今いる場所から立ち去りどこかへ行ってしまふことを表します。

例えば、右の絵の例ですが、あきこさんは学校にいます。荷物をまとめてから、クラスメイトに、**"Ya me voy."**(私、もう行くね。)と言うところです。これは、『(今いる)学校から立ち去り、どこかに行ってしまう』ことだけを伝えており、目的地は不明です。家に帰るかもしれませんし、また全く異なる場所に向かうかもしれません。上の文章から確実にわかるのは、『学校から立ち去る』ということだけです。前後の流れでどのようにもとれますね。

では、次の文章を見て下さい。

Akiko: ¿Son ya las doce? ¿Tengo que irme!

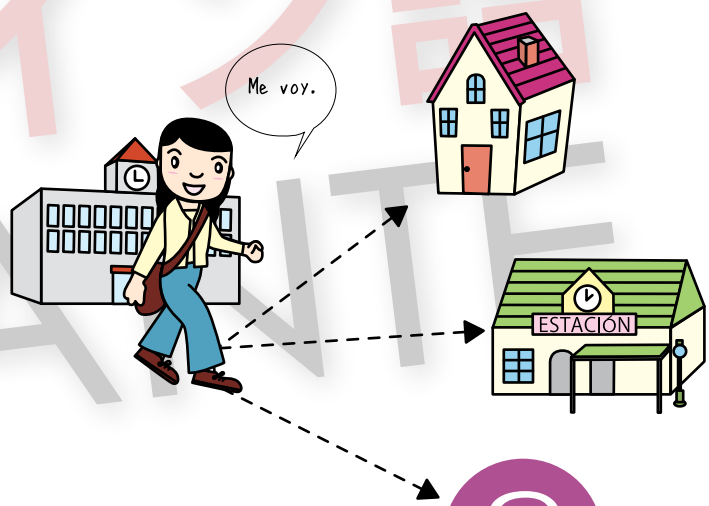
あきこ: もう12時? 行かなくちゃ!

Mari: ¿A dónde vas?

マリ: どこに行くの?

Akiko: Voy al hospital. Tengo cita con el médico a las 12:30...

あきこ: 病院。12時30分に予約しているの。



少し、使い方の差がはっきりしてきたでしょうか?最初の文では、<irse>を使い、『この場から立ち去る』ことを表しますが、2つ目の文では、『どこに行くのか?』と目的地を尋ねているので、<ir>を使っていますね。そして、この質問への答えもまた<ir>を使って目的地を表しています。

<irse>は『どこに向かうのか?』よりも、『今いる場所からいなくなる』ことに重点をおいた表現

例外もありますが、まずは基本的な概念を理解し、使ってみましょう。まずはとにかく実践あるのみ!頑張ってくださいね!

un descanso....

実は、日常表現の中にも知らず知らずのうちに使っている『再帰動詞』が隠れています! まずは、誰もが絶対に使ったこと・聞いたことがある表現です。

Yo me llamo Carlos. 私の名前はカルロスです。

原形<llamarse> <llamar(呼ぶ)> + <se(自分自身)> = 自分自身を(〜)呼ぶ

自己紹介には必ず出てくる表現ですが、これも<llamarse>という『再帰動詞』を使った文章です。<llamar(呼ぶ)>が元になっており、『自分自身を〜と呼ぶ』が転じて、『名前は〜です』という表現として使用されています。

もう一つの例を紹介しましょう。

¡Nos vemos! またね!

原形<verse> } 私があなたに会う } この2つが同時に作用し、 } あなたが私に会う } 『私たちが互いに会う』となる

これも<verse>という『再帰動詞』を使った表現です。『再帰動詞』には『互いに〜しあう』という相互用法も存在し、<verse>はこのカテゴリーに分類されます。この相互用法は、二つの物がお互いに作用し合うことを表しますので、主語が複数の場合にのみ使われます。<Nos vemos>の場合は上の様に『私たちが互いに会う』が転じて、『また会いましょう』という意味を持つ別れ際の挨拶として使われています。

相互用法の『再帰動詞』の例をも一つ上げておきましょう。

<escribirse> (お互いに便りを書きあう) = 『文通する』

何気なく聞いている言葉にも多くの発見が潜んでいるかもしれませんね!

スペイン語
ADELANTE
www.adelante.jp

- 一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベートなど目的やペースに合わせて選べるコース
- ネイティブ講師だからプチ留学気分
- 自然なスペイン語がマスターできる!
- 振替ができるので忙しくても安心!
- 月謝払いOK!
- 無料体験レッスン、教室見学等☆随時受付中

スペイン語教室 ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F
TEL: 06-6346-5554 • FAX: 06-6110-5122
E-mail: info@adelante.jp • http://www.adelante.jp